

六家集

長秋下



長秋歌原下

雜言

保送元皇太后 七月九日 皇太后

慈母よあはれと哀れと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと

慈母よあはれと哀れと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと

慈母よあはれと哀れと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと 慈母よあはれと



フー

水代もくもくおとすのり

又水代

おとすのりおとすのり

フー

おとすのりおとすのり

又

おとすのりおとすのり

フー

おとすのりおとすのり

水のはりおとすのり

フー

おとすのりおとすのり

又

おとすのりおとすのり

フー

おとすのりおとすのり

又

おとすのりおとすのり

フー

おとすのりおとすのり

又

おとすのりおとすのり

みる人此のついでに
と書院此のついでに
て此のついでに
月やわつとみ
水心おつとみ

又此日と書院
此のついでに
此のついでに
此のついでに
此のついでに

多の書院
秋多の書院
お載の書院
と書院
女院
清遺
らん
故
あ
れ山
通
入
け
あ
り
け
る

とぞおのれを母の心かきておくれはしむ世にあればこそ

〜 入居大細云

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

同十日しちろ押せ給事あるはせり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

はに七日はとておくれはしむ世にあればこそ

信輔の信

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

ふゆのこころをいひつゝもふとまをせむにけり。ちりもとくはんとてか

親隆云

譬喻、其中衆生 悉是吾子

少のりて何の事かん世中、くろく染はるるもの類

信解、無上寶聚 不求自得

申すべし、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

業、無有彼此 愛憎之心

喜、無有彼此、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

授記、於未來世 咸得成佛

い、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

化、以大慈心所 度苦惱衆生

世中、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

弟子、世尊於長夜 常慈見教化

在、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

人記、壽命無有量 以慈心所

くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

法師、衛見法古匠 安定知迫水

くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

寶塔、若暫持者 我即歡喜

くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

抱、採薪及菓蔬 隨時恭敬与

くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

勸持、我不愛身命 但惜無上法

くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

安、你入禪定 見十方佛

くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類、くろく染はるるもの類

涌出、從地而涌出

地本乃厚、らりつらりす、其いそほり、りよ、と、會、言、ん

一、身、を、現、を、滅、不、滅、
く、り、を、あ、よ、ま、に、終、の、り、り、や、り、其、る、ぬ、よ、う、の、白、き

分、の、功、徳、に、着、坐、着、終、り、除、障、常、攝、心、
と、こ、つ、つ、ひ、よ、ん、と、あ、ま、の、い、つ、ら、う、を、終、り、院、

改、善、留、徳、
家、友、弟、又、十、一、同、一、隨、也、
皆、以、乃、流、の、末、と、く、し、ん、と、ま、く、い、つ、ら、う、を、り、り、

は、神、御、徳、
又、如、淨、の、後、
是、以、法、起、縁、
ま、り、の、り、と、ま、り、伏、し、み、を、終、り、終、り、を、終、り、終、り、を、終、り、

者、不、悔、
而、打、擲、
避、走、を、住、
を、終、り、終、り、を、終、り、終、り、を、終、り、終、り、を、終、り、終、り、

神力、
於我滅度、
遍受持新、
神

是人於佛、
決定無有疑

二、法、然、此、終、り、の、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、

屬累、
今以付囑、
女等

教、く、い、法、此、を、聞、く、と、り、つ、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、

業王、
即性安示、
世界

ぬ、の、し、い、れ、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、

妙音、
及前難、
起、皆、終、救、濟

わ、り、と、海、の、し、の、し、の、し、の、し、の、し、の、し、の、し、の、し、の、し、

普門、
弘誓、
深、如、海

ち、い、ひ、ら、ん、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、

陀羅尼、
乃至、
終、後、
莫、惱

らんまうしうまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

者王く 又此一服之 毎値浮本孔

口れまはれうまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう
勸者き 昂性梵 卒天上

無尋義理 船師大船師

もつて生れ死れしうまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

善賢理 亦罪必霜家 每日結消深

分取ししうまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

心經

まはれしあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

何れ陀羅

法乃みふりしあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

有女院しあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

しあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

あつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

あつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

六時後

晨朝

朝は定しあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

かのかつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

黄金璣瑤乃庵はあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

船師しあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

次は彼かあつたれはあはれ申すまふりしあつたれはあはれ申すまふりしう

界は死るるに執花乃玉とてゆく心
もあつたはれ家には海はあはれを結ぶ
彼よを天の露の地とあはれ進りし香像白
香像此等乃大士は他遇と
去乃る方はつる心はくはれはれはれん

日中時

他方界より思てはつた飲食はれと
昔乃体乃は因めらりてはれはれはれはれ
飲食早にたはれはれはれはれはれ
樹乃はれはれ一実想乃はれはれはれはれ
浪よはれはれはれはれはれはれはれはれ
のけはれはれはれはれはれはれはれはれ

ありてはれはれはれはれはれはれはれはれ
或ははれはれはれはれはれはれはれはれ
ありてはれはれはれはれはれはれはれはれ

日没時

全はれ世界はれはれはれはれはれはれはれ
ありてはれはれはれはれはれはれはれはれ
或ははれはれはれはれはれはれはれはれ
来はれはれはれはれはれはれはれはれはれ

白はれはれはれはれはれはれはれはれはれ
或ははれはれはれはれはれはれはれはれはれ
薩はれはれはれはれはれはれはれはれはれ
来はれはれはれはれはれはれはれはれはれ

夕ぐれの夜をくくをるくわあはちかすあまともみ
毗舎離城くはせり維た居士来まると

いふ六つひきむらゆきそは人今すわひみりま
時は大衆法と同一に殊欽長膳作とん即
時一自然く無投妙花散乱す

いふくま元くわもくわあふれまははれあま
とまえれり日とみてくまひくまは内國女まはる

初夜時

見佛開法事早く中乃坊はゆり
戒ハ念ハむ此中念多降去の心戒ハ極
場乃周の上降極降去乃くわわ
ゆりくまのうまもものうままはあめくはあま

半夜

夜乃境動くくゆく中初くまは三入
乃人くくたはまゆく全繩界乃あゆ
衣室因むは境界の年動要樂の心ん
まはあま動くく昼乃界くまはあ
あまはあまはあまはあまはあまはあ

後夜

曉到る海乃夢金乃まはあまはあ
欲眼まは海乃ま玉乃着就くくわひま
いふ乃あまのひはあまはあまはあ
あまはあまはあまはあまはあまはあ
見佛開法縁ゆはは地と踏者難有

かしの紙は法華同く下所る守りあつてけとては書
人乃第二品種信養一々の時序品乃
ころり紙

御方の紙も走し一々の紙書持しつるころり紙
又ありては乃一品紙。すは乃其知恵門
難解難入のころり紙

御方の紙も走し一々の紙書持しつるころり紙
又ありては乃一品紙。すは乃其知恵門
難解難入のころり紙

御方の紙も走し一々の紙書持しつるころり紙
又ありては乃一品紙。すは乃其知恵門
難解難入のころり紙

御方の紙も走し一々の紙書持しつるころり紙
又ありては乃一品紙。すは乃其知恵門
難解難入のころり紙

乃同法原教紙 亦是ころり一乃一品御紙
卷り一乃ハ海紙ところり紙以件紙
文お二界若とろ文紙人くころり紙を
ころり紙

ころり紙
亦是ころり一乃一品御紙
卷り一乃ハ海紙ところり紙以件紙
文お二界若とろ文紙人くころり紙を
ころり紙

亦是ころり一乃一品御紙
卷り一乃ハ海紙ところり紙以件紙
文お二界若とろ文紙人くころり紙を
ころり紙

道目の行者乃紙のさ合のころり一品紙
人くころり紙

いひゆりし、信解亦成りて、
周流徳國五十余年、乃うう成りて、
うういし、此の徳よとらわす、
又あり、不此一品、
寂莫無人聲、
我尔時為現、
よ人の徳なり、
わうは、
音らり、
於惡世廣演此經の、
これ、
又人の、

不乃うう成

神の上此の、
神持不、我等同記、心安具足、
くわん、
妻奉行不、若於、
く、
同不、
乃、
は、

況皆そ佛法乃ん成す

しるるさるんれすめれくすしきなはれ

非れ奇

三ある叙しそつちを流れれを帯傳
しるるしるる賀れれ傳よわらりて下乃
法れりりれりりり上れれれりりりり
ひりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりり

じりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

り

あつしめを我に託すにやうかきつゝ
述懐 道世れら

まづりやとていふはなれぬまゝに
撰集せられたるはなれぬまゝに
しるしのなきるはなれぬまゝに

ひよとて我に託すにやうかきつゝ
安元二年の九月廿四日
おろしやとていふはなれぬまゝに
さゆえんといふはなれぬまゝに
うしろのつゝにやうかきつゝ
副々たる

ひよとて我に託すにやうかきつゝ
あつしめを我に託すにやうかきつゝ

へん 大お

あつしめを我に託すにやうかきつゝ
道世れら

それとて我に託すにやうかきつゝ
乃きとて我に託すにやうかきつゝ

あつしめを我に託すにやうかきつゝ
又これとて我に託すにやうかきつゝ
あつしめを我に託すにやうかきつゝ

あつしめを我に託すにやうかきつゝ

しやうのよき世に安んずるはすまじき事なり
又月ぬ

しやうの物とていふはありあけなる事なり
又月ぬ
みづぬみづのこぼれは鶴の鳴き声にして
志のまはりにあはれりやうきものか
いふもれをきらばよき事なり
又月ぬ

過不なき事

しやうの物とていふはありあけなる事なり
又月ぬ
みづぬみづのこぼれは鶴の鳴き声にして
志のまはりにあはれりやうきものか
いふもれをきらばよき事なり
又月ぬ

あはれやいふはすまじき事なり
月

月の秋あはれは月よりあはれなり
あはれはくさくははらばはらば
つる鳥のこぼれは鶴の鳴き声にして
志のまはりにあはれりやうきものか
いふもれをきらばよき事なり
又月ぬ

祝

あはれやいふはすまじき事なり
又月ぬ
みづぬみづのこぼれは鶴の鳴き声にして
志のまはりにあはれりやうきものか
いふもれをきらばよき事なり
又月ぬ

さうさう線と一か山とさうさうしていつのちのちも
のこあ

若めむ

秋のみの秋風とてあはれさう物れをもそ嘆りてあはれ
あまのつゆさるものも女房を秋れつまゝにみすけり
いさゝかや神志あはれのへまおていさゝか秋れをみり
小菰の頃のともふ人の栖まてあはれやともわかんと
わさゝかやあけこのへまを麻衣の毛さうらう秋れ

環

みる海とあはれさうみあはれ海山と秋れあはれ物さほ
日取りまはれ秋とさうあはれあはれさうさうさうさう
と秋のつゆさるものも女房を秋れつまゝにみすけり
いさゝかや神志あはれのへまおていさゝか秋れをみり
小菰の頃のともふ人の栖まてあはれやともわかんと

あまのつゆさるものも女房を秋れつまゝにみすけり
いさゝかや神志あはれのへまおていさゝか秋れをみり

お葉

秋のみの秋風とてあはれさう物れをもそ嘆りてあはれ
あまのつゆさるものも女房を秋れつまゝにみすけり
いさゝかや神志あはれのへまおていさゝか秋れをみり
小菰の頃のともふ人の栖まてあはれやともわかんと

お葉

あまのつゆさるものも女房を秋れつまゝにみすけり
いさゝかや神志あはれのへまおていさゝか秋れをみり
小菰の頃のともふ人の栖まてあはれやともわかんと

安示行品

不親近諸外道梵志尼繼子等及世俗

文筆讚詠

和歌... 出神氏宮去伽城不遠

出神氏宮去伽城不遠

普門品

受其瑞格分作二分

後東方來不... 諸國普皆震動而... 勃發示

後東方來不親諸國普皆震動而

千九百番哥合之百首

千九百番哥合之百首

右方 沙弥釋阿

後

八字...

日

月

并

勝

負

去ハ...

八月無憂... 右十首判者五律門内大臣陪有勅定去年薨逝故無別

又月... 大井川... 山乃井... 吟滝...

秋二十首

ゆり... 風乃... 七夕の... 夕月...

昔... 夕... 名... 紫... じ... 名... 秋... 秋... 秋... 月... 月...

若くも代を日高井練よりしよ事代持くをたのぬ
任事此松下遠くをせしきよの年のりくを

愚中一首

昔のりたるもの此れあふりよ山袖よりをちりりてをれ
若くも代を日高井練よりしよ事代持くをたのぬ
魚いよよき今乃神の考りつるをみんがひれをたのぬ
せよきさう思ふ縁あふりつるを海をひりつる神
負のりあふりつるをみんがひれをたのぬ
日たのぬあふりつるをみんがひれをたのぬ
昔のりたるもの此れあふりよ山袖よりをちりりてをれ
若くも代を日高井練よりしよ事代持くをたのぬ
魚いよよき今乃神の考りつるをみんがひれをたのぬ
せよきさう思ふ縁あふりつるを海をひりつる神
負のりあふりつるをみんがひれをたのぬ
日たのぬあふりつるをみんがひれをたのぬ

昔のりたるもの此れあふりよ山袖よりをちりりてをれ
若くも代を日高井練よりしよ事代持くをたのぬ
魚いよよき今乃神の考りつるをみんがひれをたのぬ
せよきさう思ふ縁あふりつるを海をひりつる神
負のりあふりつるをみんがひれをたのぬ
日たのぬあふりつるをみんがひれをたのぬ
昔のりたるもの此れあふりよ山袖よりをちりりてをれ
若くも代を日高井練よりしよ事代持くをたのぬ
魚いよよき今乃神の考りつるをみんがひれをたのぬ
せよきさう思ふ縁あふりつるを海をひりつる神
負のりあふりつるをみんがひれをたのぬ
日たのぬあふりつるをみんがひれをたのぬ

新十首

昔のりたるもの此れあふりよ山袖よりをちりりてをれ
若くも代を日高井練よりしよ事代持くをたのぬ
魚いよよき今乃神の考りつるをみんがひれをたのぬ
せよきさう思ふ縁あふりつるを海をひりつる神
負のりあふりつるをみんがひれをたのぬ
日たのぬあふりつるをみんがひれをたのぬ
昔のりたるもの此れあふりよ山袖よりをちりりてをれ
若くも代を日高井練よりしよ事代持くをたのぬ
魚いよよき今乃神の考りつるをみんがひれをたのぬ
せよきさう思ふ縁あふりつるを海をひりつる神
負のりあふりつるをみんがひれをたのぬ
日たのぬあふりつるをみんがひれをたのぬ

子日小石原山野、鹿を獲りて、
佐古の松あり

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

三月
只適去野あり

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

人來をなむありて、
人來をなむありて、

二月

父家人來をなむありて、
父家人來をなむありて、

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

二月

人來をなむありて、
人來をなむありて、

鹿を獲りて、佐古の松あり、
鹿を獲りて、佐古の松あり、

あり乃て下す下あけしり守せケケりあやわ
々うんくあつ下た右の押しんたあおれ
季の御之陸信朝長たお約定家朝長入
己と八人ろを

おあまこいし威口しりさりあおれ
いれれろろろのれおのしりあおれ
りうぶりのあおんりしあろよと首を
りりりりりあおれしりあおれあ
れありりりりり人面目しりりりりり
し七首りりりりりりりりりりりりり
ろりりりりりりりりりりりりりりり
あしりりりりりりりりりりりりりり

級より級上東つ流れ入内よと係り
まそこのなあにえれろろろろろろ
ろろろ大納言忠敷ろろろ大納言中務お備
仔細ろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろ

四條のしりりりりりりりりりりりり
あ合して判じああろろろろろろろろ
お家のあ合よしあろろろろろろろろ
まろろろろ判じしりりりりりりりり
ろろろろろろろろろろろろろろろろ
乃ひろろろろろろろろろろろろろろ
あろろろろろろろろろろろろろろ

